

みんなあつまれ検証結果報告書



平成 30 年 11 月 22 日

みんなあつまれ実行委員会

はじめに

県では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念を広めていく取組みの一つとして、同じ体験を共有し、「ともに生きる」ことへの共感を広めるイベント「みんなあつまれ 2017」を平成 30 年 3 月に横浜赤レンガ倉庫にて開催し、音楽やスポーツ、アートなどを通じて、多くの方に憲章の理念を知っていただくことができた。

この「みんなあつまれ 2017」の成果と課題を踏まえ、平成 30 年度は、「継続性」や「広がり」を持った取組みを展開することとし、県内 4 か所において地域で開催されるイベントと連携し、「みんなあつまれ」を開催した。

「みんなあつまれ」は障がいのあるなしに関わらず、パラスポーツやアートやグルメなど、同じ体験を共有し、ともに楽しむことを通じて、「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけとしていただくことを目指した。

本報告書は、平成 30 年度に開催した 4 回の「みんなあつまれ」の内容・取組等をまとめるとともに、その成果と課題の検証を行った。

「ともに生きる社会かながわ憲章」

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日

神 奈 川 県

【開催概要】

イベント名	日時	会場（住所）	来場者数
みんなあつまれ in 湘南ベルマーレホームゲーム	9月22日 (土曜日)	平塚市総合公園 (平塚市大原)	1,100人 (12,000)
みんなあつまれ in アシガラマルシェ	10月7日 (日曜日)	酒匂川健楽ふれあい 広場 (松田町健康福祉セン ターそば)	4,000人 (4,000)
みんなあつまれ in 日本大通 ※ホッチポッチミュージックフェ スティバル 2018 と同時開催	10月14日 (日曜日)	日本大通(県庁前) (横浜市中区日本大 通)	20,000人 (35,000)
みんなあつまれ in 相生祭(相模女子大学学園祭)	11月3日 (土曜日)	相模女子大学 (相模原市南区文京)	6,000人 (10,000)
		計	31,100人 (61,000)

※（ ）内は、連携イベントを含めた集客数

◇主 催 みんなあつまれ実行委員会

◇後 援 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、平塚市、南足柄市、中井町、
大井町、松田町、山北町、開成町、神奈川県市長会、神奈川県町村会

◇事務局 みんなあつまれ実行委員会事務局

(神奈川県福祉子どもみらい局福祉部共生社会推進課内)

◇H P

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/cnt/f535463/minnaatsumare.html>

◇事業費 760万円

◇イベントロゴ

- ・NPO 法人アール・ド・ヴィーヴルに依頼し、「大勢のいろんな人が一緒に楽しむこと」をコンセプトとするイベントロゴを作成した。

◇テーマソング So Life Goes on

- ・クレイ勇輝氏がみんなあつまれのために書き下ろした楽曲



【開催内容】

- 各会場において、みんなで同じ体験を共有し、一緒に楽しんで「ともに生きる」ことを共感できるプログラムを実施した。
 - ◇ スポーツでみんなあつまれ！
日本代表選手を含むパラスポーツ選手と一緒に、気軽に参加して楽しめるパラスポーツプログラム
 - ◇ アートでみんなあつまれ！
障がいのあるアート作家などと一緒に体験できるワークショップ、自主製品の制作の実演
みんなあつまれの象徴となるアート作品（みんなでつくろう！シンボルアート）を来場者とともに制作
 - ◇ グルメでみんなあつまれ！
障がい福祉サービス事業所の支援者、利用者によるパンや菓子などの飲食物の販売

- 憲章の理念の発信
イベント当日は、憲章の全文を記載したイベントチラシやうちわ（計 11,300 枚）を配布したほか、場内で憲章を繰り返して放送するなど、多くの来場者へ憲章を発信した。
各プログラムの体験者へのアンケートの際は、憲章を制定した経緯や目的を含めて説明した。

<みんなあつまれ in 湘南ベルマーレホームゲーム>

9月22日（土）／1,100人（12,000人）／晴れ時々曇り

- サッカーJ1湘南ベルマーレのホームゲーム（対セレッソ大阪戦）のプレイベントとして開催した。
- 会場と隣接する場所で練習していた地元の少年サッカーチームが、アンプティサッカー体験に参加する一方、少年サッカーチームの練習に、アンプティサッカー選手（障がい当事者）が飛び入り参加してミニゲームを行うなど、障がい当事者と来場者の密度の濃い交流があった。
- サッカー観戦者の来場に期待していたが、会場がサッカーの競技場への動線と少し離れていたこともあり、呼び込みを行ったものの十分な集客に至らなかった。
- 連携イベントを選定する際は、イベント内容だけでなく会場内での配置も含めて検討する必要があるといった課題が見つかった。

【連携イベントの様子】



◇スポーツでみんなあつまれ！

種目 (内容／体験人数)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・アンプティーサッカー (キックターゲット／ 60人) ・障がい者 フライングディスク (ディスクゲッター／ 169人) ・チェアスキー (モニターを使った 競技体験／120人) ・ローイング (モニターを使った 競技体験／130人) 	  

◇アートでみんなあつまれ！

出店者 (内容／体験人数)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・アール・ド・ヴィーヴル (シンボルアートづくり／40人) ・とまと (アクセサリ／10人) ・サンメッセしんわ (アニマルボックス／7人) ・ひらつか障がい者福祉ショップ ありがとう (コースター／6人) 	  

◇グルメでみんなあつまれ！

出店者 (商品)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・パン遊房 亀吉 (パン) ・かたつむりの家 (パン、リンゴジュース) ・しんわルネッサンス (パン、トマトジュース) ・どんぐりビレッジ (焼菓子、どんぐり茶) 	 

<みんなあつまれ in アシガラマルシェ>

10月7日（日）／4,000人（4,000人）／晴れ

- 足柄上地域の活性化を目指した、100店舗以上が並ぶ地域最大級のマルシェ、アシガラマルシェと連携して開催した。
- 出店事業者がワークショップの参加者に対し自身の障がい福祉サービス事業所の紹介を行った。また、事業所の利用者と初めて交流したことで、「事業所に親しみを感じることができた」と話す事業所の近隣住人の方がいるなど、障がい福祉への理解の促進ができた。
- 一体的な会場レイアウトの中、バリアフリーの観点からも駐車場に近く、会場の入口付近に配置していただいたため、連携イベントに来たほとんど全ての来場者にみんなあつまれのプログラムをアピールすることができた。
加えて、連携イベントのパンフレットと一緒に憲章のうちわを来場者に配布するなど、憲章の理念の発信を連携して実施することができた。

【連携イベントの様子】



◇スポーツでみんなあつまれ！

種目 (内容／体験人数)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす陸上 (速度測定／50人) ・ パラパワーリフティング (何キロあがるか挑戦／60人) ・ ハンドサイクル (乗車体験／70人) 	  

◇アートでみんなあつまれ！

出店者 (内容／体験人数)	実施の様様
<p>・アール・ド・ヴィーヴル (シンボルアートづくり／30人)</p> <p>・永耕園 (機織り／32人)</p> <p>・竹ノ子ケアセンター (リース／7人)</p>	  

◇グルメでみんなあつまれ！

連携イベントであるアシガラマルシェが企画・運営

[参考 出店した障害福祉サービス事業所]

- ・ハッピーラボ（餃子）
- ・ふくらん（洋菓子）

<みんなあつまれ in 日本大通>

10月14日（日）／20,000人（35,000人）／曇り

- 国・世代・性別・障がいの有無などに関わらず、誰もが集える参加型音楽フェス「ホッチポッチミュージックフェスティバル」と同時開催した。
- 各ブースでは、障がい当事者である利用者が大きな声で来場者の呼び込みを行うなど積極的に参加しており、聴覚障害者も自分のブースの案内を記載したボードを掲げて呼び込みを行うなど、障がい当事者と来場者の交流の場面が多かった。
- 同日は、横浜地方裁判所の側で「ホッチポッチミュージック」、象の鼻パークで「横浜よさこい祭り」が開催され、各イベントのチラシを互いに配布・配架するなど連携して周知を行うことにより、多くの方々にご来場いただき、憲章の理念の普及ができた。

【イベントの様子】



◇スポーツでみんなあつまれ！

種目 (内容／体験人数)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・ウィルチェアラグビー ー (乗車・タックル体験 ／45人) ・車いすバスケットボール (乗車・シュート体験 ／16人) ・パラパワーリフティング (何キロあがるか挑戦 ／102人) ・ローイング (モニターを使った競 技体験／127人) 	  

◇アートでみんなあつまれ！

出店者 (内容)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・アール・ド・ヴィーヴル (シンボルアートづくり／20人) ・希望更生センター (トートバックへの絵付け／20人) ・ショコラボ (パラコード／4人) ・第2かたるべ社 (缶バッジ／21人) ・光の丘 (貼り絵コースター／15人) ・本牧一丁目工房 (切り絵／3人) ・東京ガス株式会社 (片手でクッキング) 	  

◇グルメでみんなあつまれ！

出店者 (商品)	実施の様様
<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶ポトピ (パン、ドリンク) ・シルクレール (スナック菓子) ・すかいはーと (焼きそば) ・スマイルガーデン (焼菓子、洋生菓子) ・にここパン工房 (パン) ・ハッピーラボ (餃子) ・まどか工房 (焼菓子) ・森の庭 (焼菓子) ・リアクタント (スナック菓子、コー ヒー) 	  

<みんなあつまれ in 相生祭>

11月3日(土) / 6,000人(10,000人) / 晴れ

- 大学部・高等部・中等部・小学部・幼稚部が合同で行う相模女子大学の学園祭「相生祭」と連携して開催した。
- ウィルチェアラグビーでは、パス回しやタックルといった日本代表の選手によるレベルの高いパフォーマンスに、体験者だけでなく会場に集まっていた人々から感嘆の声があがっていた。体験後は、多くの方々が選手にサインや写真を求めている。
- 機織りのデモンストレーションをしていた障がい当事者と来場していた子どもとの間で、機織りに関する質問のやりとりが行われるといった自然な交流があった。
- 相生祭に来場した学生・保護者を中心に、子どもから高齢者まで幅広い層の方の来場があった中、メイン会場からやや離れた場所での実施ではあったが、着ぐるみを着用した職員による声掛けやスタンプラリーの実施など工夫した呼び込みにより、多くの方々にご来場いただき、憲章の理念の普及ができた。

【連携イベントの様子】



◇スポーツでみんなあつまれ！

<p>種目 (内容／体験人数)</p>	<p>実施の様様</p>
<p>・ウィルチェアラグビー — (乗車体験・ミニゲーム／30人) ・車いすソフトボール (ピッチング・バッティング体験／160人) ・チェアスキー (モニターを使った競技体験／142人)</p>	  

◇アートでみんなあつまれ！

出店者 (内容／体験人数)	実施の様相
<ul style="list-style-type: none"> ・アール・ド・ヴィーヴル (シンボルアートづくり／30人) ・旭カンパニー (木工細工／19人) ・アトリエ言の葉 (箸袋・ポチ袋28／人) ・ひまわり工房 (手織りコースター／11人) 	  

◇グルメでみんなあつまれ！

出店者 (商品)	実施の様様
ハンドメイドショップ バオバブ (焼菓子) ※相模原市による声掛け	

【アンケート結果と分析】

＜来場者アンケート＞ [回答数：443件]

▼イベントによる「共生社会」への関心の高まり

イベントに来場して、「共生社会」や「障がい福祉」への関心が高まったかと尋ねたところ、「関心が大いに高まった」（33.0%）と「関心が高まった」（52.4%）を合わせた「高まった」が85.4%となった。

「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけづくりとする「みんなあつまれ」の目的は概ね達成できた。

▼イベントへの来場理由

このイベントを何で知ったかと尋ねたところ、「連携イベントに遊びに来た」（27.4%）が最も多く、次いで「周辺の施設・観光地に来た」（21.7%）、「ポスター・チラシを見た」（11.0%）となった。また、自由回答では「通りかかった」も多くみられた。

集客力を有する会場において既存のイベントと連携して、「みんなあつまれ」を開催する手法が集客に有効であったと考えられる。

▼イベント来場者の居住地域

居住地域を尋ねたところ、「イベント開催自治体及びその近隣の自治体」が70.1%となった。

県内各地で開催し、地元の住民に来場いただくことで、憲章の理念を各地に広めることができた。

＜出店者（障がい当事者）アンケート＞

▼障がい当事者との触れ合い

・ワークショップの実施や商品の販売を通して、利用者が来場者と触れ合うことができた

・利用者の普段の活動を知ってもらう機会となった

といった意見があり、障がい当事者と来場者との交流していただくことができた。

▼事業所間の交流

・出店者である障害福祉サービス事業所の間で交流や情報交換ができた

・他の事業所のアイデアや工夫を知ることができた

といった意見があり、各地域で様々な活動に取り組む事業所が集まる機会にもなり、事業所同士の交流の場にもなった。

【成果と課題】

<「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の発信>

◇成果

- ・イベント当日は、憲章の全文を記載したイベントチラシやうちわを配布したほか、場内で憲章を繰り返して放送するなど、多くの来場者へ憲章の理念を発信できた。
[計 11,300 枚 (イベントチラシ 7,000 枚、うちわ 4,300 枚)]
- ・プログラムの体験者へのアンケートの際は、憲章を策定した経緯や目的を含めて説明し、憲章の理念の浸透に一定の成果があった。[アンケート 443 件]

◇課題

- ・多くの来場者へ憲章の理念を発信したところであり、引き続き継続的な発信をしていく必要がある。

<地域・イベントとの連携>

◇成果

- ・「継続性」や「広がり」を持った取組を展開することとし、県内4か所において地域のイベントと連携して開催することで、地元の方をはじめ、多くの方に来場いただくとともに、地元で活動する多くの障がい福祉サービス事業所が出店することができた。
- ・開催場所となる市町や連携イベントと協力し、お互いに広報を行うなどイベントの周知を実施することができた。
- ・着ぐるみを着用したスタッフによる呼び込みやスタンプラリーの実施により集客力が高められた。

◇課題

- ・地域のイベントと連携する手法は有効と考えられ、集客力のある会場やイベントを選ぶとともに、会場内における配置なども調整する必要がある。

<広報>

◇成果

- ・ポスター掲示やチラシ配布を小田急電鉄株式会社など公共交通機関等の無償協力を得て行ったほか、県機関、県立学校、市町村、地元市町立小・中学校、私立学校、コンビニエンスストア、実行委員会構成組織等、各方面に幅広く周知することができた。
[ポスター：1,000 枚、チラシ：28,000 枚]
- ・地元の県政総合センターや市町の協力により、市町の広報誌への「みんなあつまれ」の紹介記事の掲載や自治会の回覧など地域の方々への広報を実施することができた。
[相模原市、平塚市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町]

◇課題

・イベントへの来場の理由として「ポスター・チラシを見た」が一定の割合を示しており、各団体の無償協力によるポスター・チラシの掲示・配架の効果がみられた。一方、イベントの開催場所や出店プログラムの決定に時間を要し、具体的な内容に関する広報が十分にはできなかった。広報に十分な期間を確保するとともに、より多くの方に伝わる方法などを検討する必要がある。

<バリアフリー>

◇成果

・手話通訳者の配置や仮設のバリアフリー対応のトイレの設置をはじめ、会場の特性に応じたバリアフリーへの配慮・対応をとることができた。

◇課題

・地面の凹凸など会場の特性によっては臨時的な対応をとることが難しいものもあり、連携イベントの検討にあたっては、バリアフリーへの配慮といった視点もさらに考慮する必要がある。

<コンテンツ（スポーツ、アート、グルメ）>

[スポーツでみんなあつまれ!]

◇成果

・各イベントに年齢層に関係なく気軽に体験できるコンテンツを出店し、延べ1,281名に体験をしていただくことができた。
・ウィルチェアラグビーや車いすバスケットボールなどは、見ている側も楽しく、体験者以外にも見物する方々が多く集まった。
・フライングディスクやチェアスキー体験などは、子どもからお年寄りまで体験できる内容であったことから、幅広い年齢層の方に体験していただくことができた。

◇課題

・ウィルチェアラグビーや車いすバスケットボールは、車いすの操作から始め、時間をかけて密度の濃い体験を実施するため、体験できる人数に限りがある。体験内容の密度の濃さと体験人数のバランスについて、検討する必要がある。
・みんなあつまれ in 日本大通では、通路幅の確保に限度あったため、会場内を巡る方々とパラスポーツ体験の待機者の列が交錯する時間帯があった。パラスポーツ体験については、体験希望者の待機スペースの確保や整理券の発行など、工夫する必要がある。

[アートでみんなあつまれ!]

◇成果

・アート作品の販売だけでなく、来場者が気軽に体験できるワークショップや作品の制作実演を行い、延べ303名が参加した。

・食品を扱う障がい福祉サービス事業所と異なり、事業所として常設店舗を持たないため、地域との日常的な交流の機会が少ない事業所もあったが、来場者に対し事業所の活動を紹介するパンフレットの配布や説明により、事業所の活動への理解の促進を図ることができた。

・事業所の近隣に住む来場者から「(利用者と初めて直接やり取りをしたことで)より事業所に親しみを感じることができた」との感想が寄せられたり、事業所が自主的に行うイベントへの参加の希望が示されるなど、事業所や来場者の地元で開催したことが、特に功を奏した。

・みんなあつまれの4か所を持ち回り、大きな一枚の帆布にその象徴となるシンボルアートを来場者とともに描いた。子ども達を中心にみんなが一緒になって取り組むことで、「ともに生きる」を表現するシンボルアートを完成することができた。

◇課題

・スポーツなどの参加無料のコンテンツがある中で、有償のワークショップは体験者数が伸びにくかった。より多くの方にワークショップを体験してもらえるような工夫が必要である。

・みんなあつまれ1会場当たり最多で6事業所が出店したが、出店数が多いために、来場者を複数の出店事業所で分け合うような状況や、観光や連携イベントが目的で来場した方が、駆け足でブースをまわる場面が見受けられた。集客見込数と出店事業所数のバランスをとるなど工夫が必要である。

・事業所により、ブースの装飾や呼び込みの取組みに差があったため、好事例を紹介するなど、工夫を促す取組みも必要である。

[グルメでみんなあつまれ!]

◇成果

・来場者に対し事業所の活動を紹介するパンフレットの配布や説明により、事業所の活動への理解の促進を図ることができた。

・「その場で『おいしい』との感想が得られて、うれしかったと利用者が言っていた」、「横浜の有名な場所での出店で、利用者が普段以上に張り切って販売をしていた」など、利用者の励みになっている様子が見られた。

◇課題

・出店事業所数が多いために、来場者を複数の出店事業所で分け合うような状況や、メニューが重複した会場もあった。また、連携イベント側の出店条件などにより現地での加熱調理ができず、パンや焼き菓子に偏らざる得ず、来場者のニーズに沿えない会場もあった。

これらのことから、出店事業所数を絞るなどの見直しや、加熱調理を行うことができる連携イベントの選定が必要である。

・事業所により、ブースの装飾や呼び込みの取組みに差があったため、好事例を紹介するなど、工夫を促す取組みも必要である。

参考資料

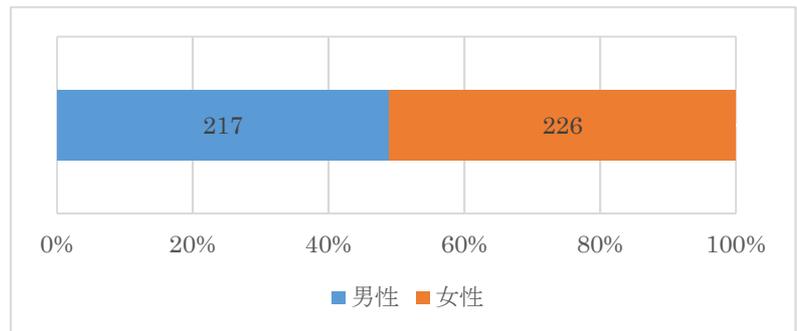
- ・ 来場者へのアンケート結果
- ・ 事前広報_実績一覧
- ・ 当日の広報・憲章の PR_実績一覧
- ・ バリアフリー対応状況例
- ・ 委員／実行委員会開催歴

来場者へのアンケート結果 [回答数 : 443]

<来場者の属性>

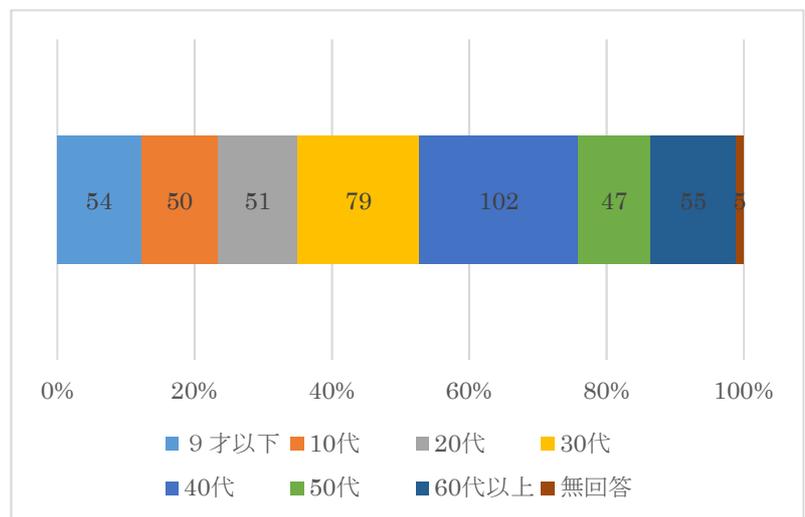
【性別】

	回答数	割合
男性	217	49.0%
女性	226	51.0%



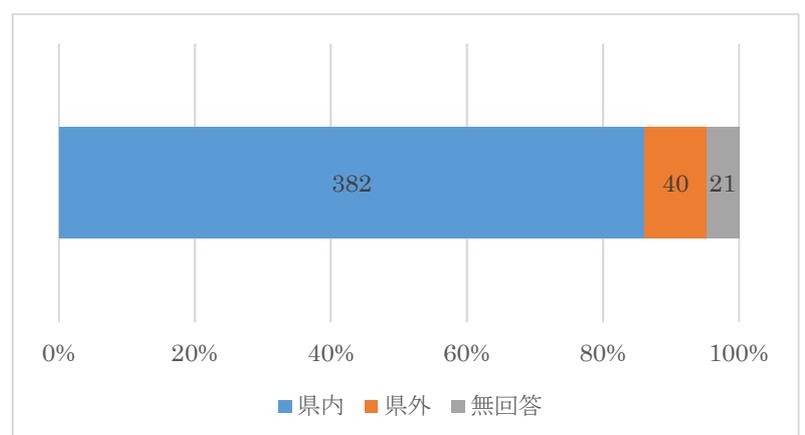
【年齢層】

	回答数	割合
9才以下	54	12.2%
10代	50	11.3%
20代	51	11.5%
30代	79	17.8%
40代	102	23.0%
50代	47	10.6%
60代以上	55	12.4%
無回答	5	1.1%



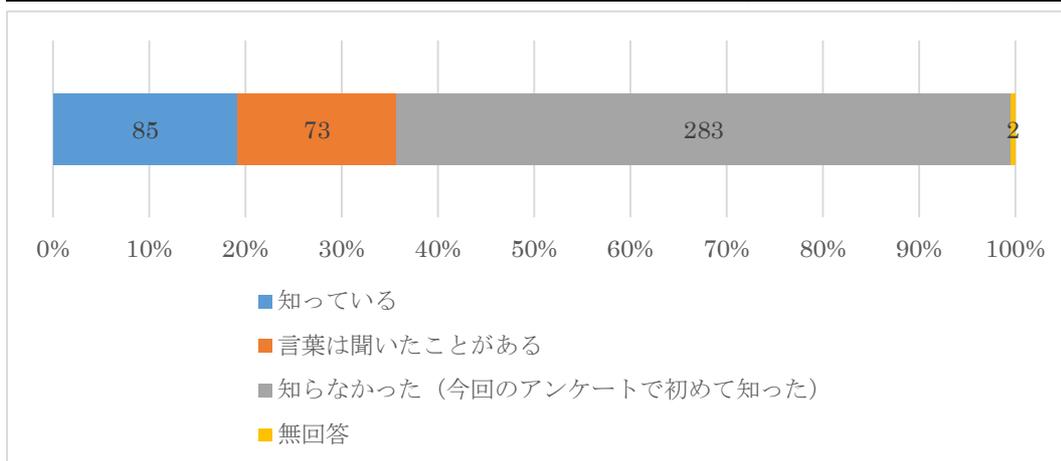
【居住地域】

	回答数	割合
県内	382	86.2%
県外	40	9.0%
無回答	21	4.7%



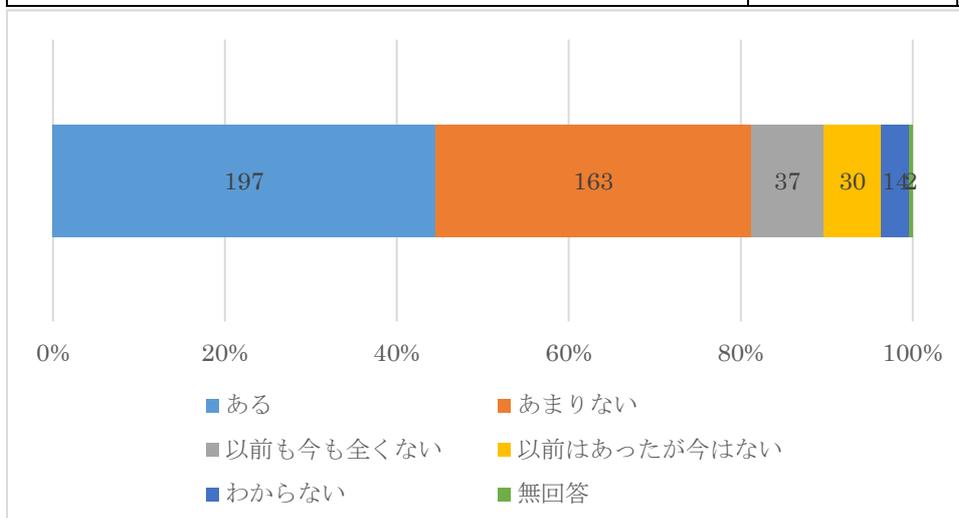
Q1：あなたは、ともに生きる社会かながわ憲章を知っていますか。(回答は1つ)

項目	回答数	割合
知っている	85	19.2%
言葉は聞いたことがある	73	16.5%
知らなかった(今回のアンケートで初めて知った)	283	63.9%
無回答	2	0.5%



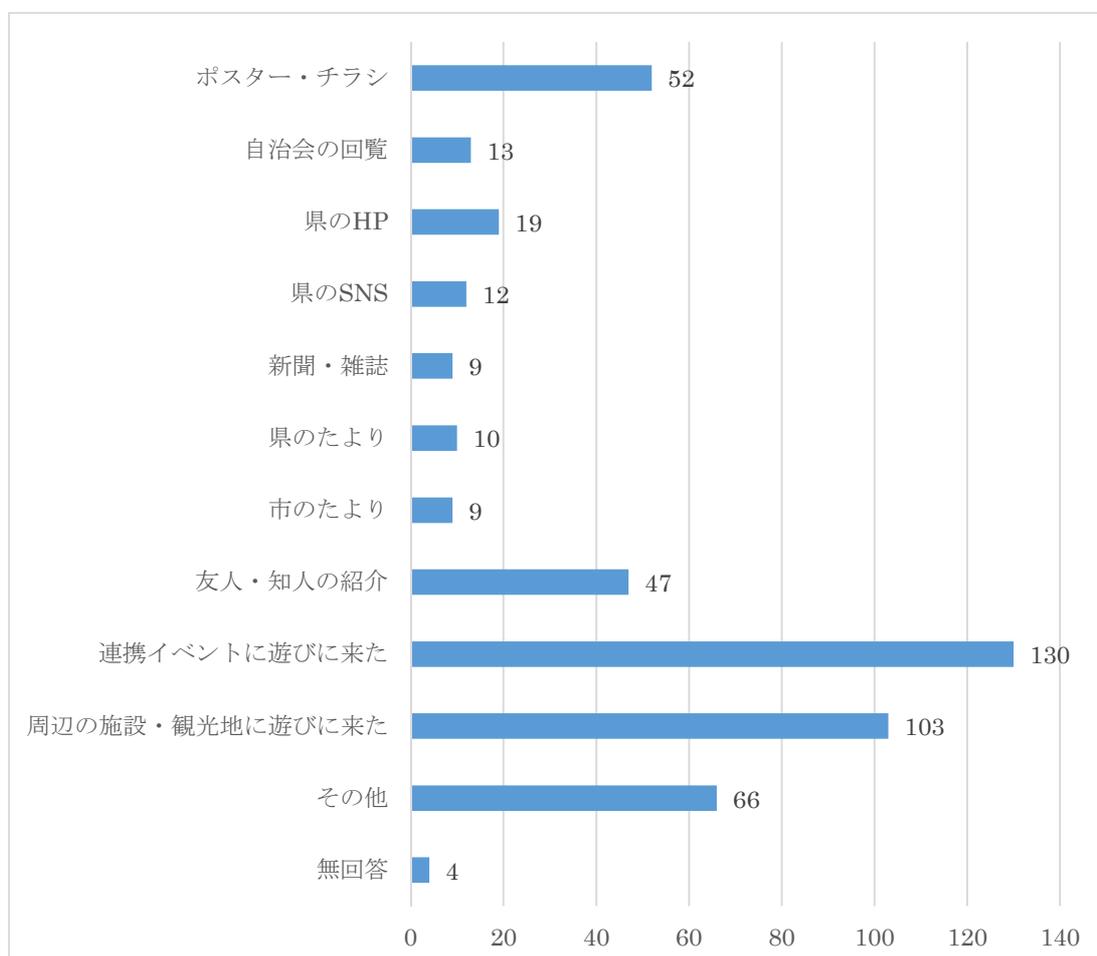
Q2：あなたは、身近で障がい者と接する機会ありますか。(回答は1つ)

項目	回答数	割合
ある	197	44.5%
あまりない	163	36.8%
以前も今も全くない	37	8.4%
以前はあったが今はない	30	6.8%
わからない	14	3.0%
無回答	2	0.5%



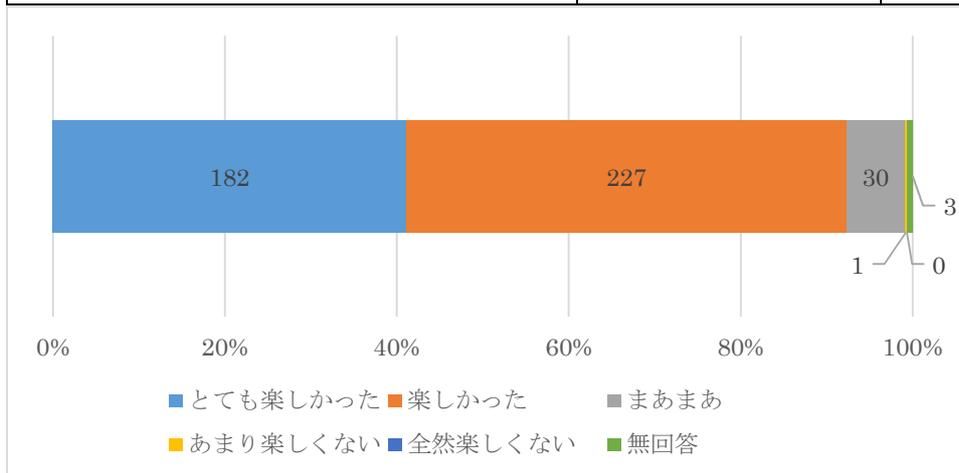
Q3：このイベントを何で知りましたか。(複数回答可)

項目	回答数
ポスター・チラシ	52
自治会の回覧	13
県のHP	19
県のSNS	12
新聞・雑誌	9
県のたより	10
市のたより	9
友人・知人の紹介	47
連携イベントに遊びに来た	130
周辺の施設・観光地に遊びに来た	103
その他	66
無回答	4



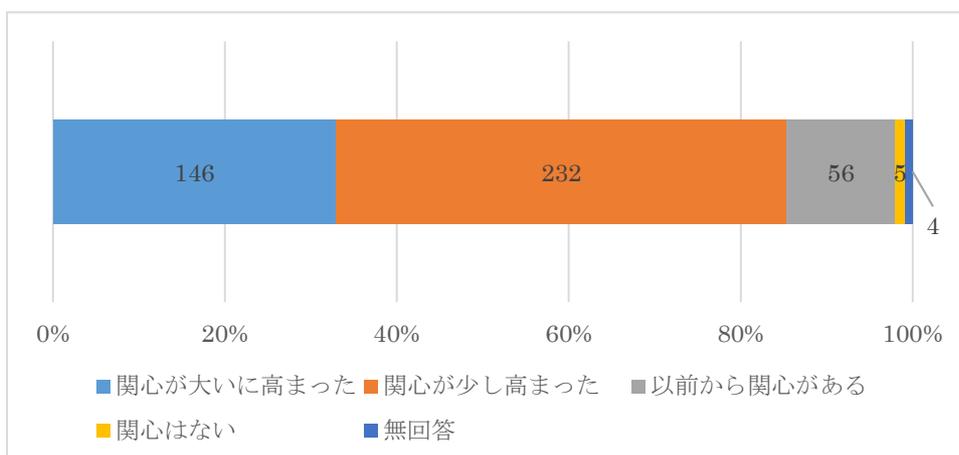
Q 4 : イベントは楽しかったか。(回答は1つ)

項目	回答数	割合
とても楽しかった	182	41.1%
楽しかった	227	51.2%
まあまあ	30	6.8%
あまり楽しくない	1	0.2%
全然楽しくない	0	0.0%
無回答	3	0.7%



Q 5 : イベントに来場して、「共生社会」や「障がい福祉」への関心が高まりましたか。(回答は1つ)

項目	回答数	割合
関心が大いに高まった	146	33.0%
関心が少し高まった	232	52.4%
以前から関心がある	56	12.6%
関心はない	5	1.1%
無回答	4	0.9%



事前広報実績一覧

アピール先	配布・掲示先	チラシ	ポスター	備考
一般	県の出先機関	1,450	10	県立図書館、各県政地域総合センターなど
一般	県の本庁庁舎	1,000	20	
一般	各市町村	3,250	33	
学生	県立学校	1,800	180	180校
学生	開催自治体の小中学校	0	220	平塚市 48校、足柄上1市5町 26校、横浜市（中区、西区） 37校、相模原市 109校
学生	私立学校	0	300	300校
障がい当事者・支援者	社会福祉協議会	1,500	33	
地元	開催自治体	3,000	0	
地元	商工会議所関連企業	1,000	10	
地元	商工会関連企業	1,000	10	
一般	JR各駅	0	72	横浜駅や平塚駅など県内36駅
一般	みなとみらい線各駅	0	12	
一般	小田急線各駅	0	100	相模大野駅や小田原駅など町田駅以西県内各駅（50駅×2回（アシガラマルシェと相生祭））
一般	セブンイレブン	14,000	0	県内1,400店舗
計		28,000	1,000	

一般	ホームページ（県）			
一般	県のたより（10月号）			発行部数350万部
一般	記者クラブ			9/4知事定例記者会見（県政・相模原・厚木・大和・平塚・藤沢・秦野・小田原記者クラブ）
一般	Youtube			かなチャンTV（4回）
地元	開催自治体の広報誌			平塚市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
地元	連携イベントのチラシ			アシガラマルシェ、ホッチポッチミュージック、相生祭

当日の広報・憲章のPR_実績一覧

イベント／広報物	当日用の チラシ ※1	憲章の うちわ ※2	憲章の アナウンス ※3	参考_来場者数
in湘南ベルマーレ ホームゲーム	0	500	20	1,100
inアシガラマルシェ	0	1,300	0	4,000
in日本大通	5,000	500	20	20,000
in相生祭	2,000	2,000	20	6,000
計	7,000	4,300	60	31,100

※1 憲章の全文も印字したチラシ

※2 憲章の全文を印字したうちわ

※3 放送機器を使った職員による憲章の読み上げ（20分に1回程度）

バリアフリー対応例

区分	配慮事項／イベント	in湘南ベル マーレホーム ゲーム	inアシガラマ ルシェ	in日本大通	in相生祭
広報	会場までの経路など分かりやすい案内	○	○	○	○
	やさしい日本語、音声、テキストなど複数パターン用意	○	○	○	○
共通	案内板にトイレ、案内所や休憩所を表示大きくて太い文字書体の見やすい案内板・標示			○	
	案内誘導や説明誘導できるスタッフの配置	○	○	○	○
肢体 不自 由	みんなのトイレや休憩所などの設置	○	○	○	○
	車いすが通行しやすい幅員の確保	○	○	○	○
聴覚 障害	手話通訳者の配置	○	○	○	○
	耳マークを設置し筆談対応	○	○	○	○
視覚 障害	点字や音声による案内			○	
知的 障害 ・ 精神 障害	案内誘導や説明誘導できるスタッフの配置	○	○	○	○
	介助者を含めたコミュニケーション	○	○	○	○

みんなあつまれ実行委員会

【委員】

役職	氏名	所属
名誉実行委員長	黒岩 祐治	神奈川県知事
名誉顧問	林 文子	横浜市長
名誉顧問	福田 紀彦	川崎市長
名誉顧問	加山 俊夫	相模原市長
名誉顧問	小林 常良	神奈川県市長会会長（厚木市長）
名誉顧問	冨田 幸宏	神奈川県町村会会長（湯河原町長）
実行委員長	篠原 正治	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会会長
副実行委員長	首藤 健治	神奈川県副知事
監事	稲垣 良一	一般社団法人神奈川県商工会議所連合会 専務理事
委員	三瓶 正義	神奈川県商工会連合会 専務理事
委員	萩原 美由紀	NPO 法人 アール・ド・ヴィーヴル理事長
委員	鈴木 暢	NPO 法人 神奈川セルフセンター代表
委員	戸井田 愛子	公益財団法人 神奈川県身体障害者連合会会長

【開催状況】

回	開催日	議 題
1	平成 30 年 7 月 13 日	(1) 平成 30 年度 みんなあつまれ収入支出予算（案）について
		(2) 平成 30 年度 みんなあつまれ企画（案）について
2	平成 30 年 9 月 4 日	(1) みんなあつまれのロゴについて
		(2) みんなあつまれの広報について
		(3) みんなあつまれの出店コンテンツについて
3	平成 30 年 11 月 22 日	(1) 平成 30 年度 みんなあつまれの検証結果について
		(2) 平成 31 年度 みんなあつまれの方向性について